

< 編集後記 >

2008年（平成20年）最初のセンターニュースをお届けします。本年もよろしくお願いたします。

もう平成も20年になりまして、今度の現役入学者はみんな平成生まれだというのが大学界隈での共通の話題かと思います。巻頭言において福村先生は「あるメーカーの講演会で『チップケなALUを分厚なOSでくるんで……』と皮肉ったところからダウンサイジングが始まり」とおっしゃっていますが、平成元年、1989年といえば、ちょうどそのダウンサイジングの波が日本をはじめ世界中を洗い始めていたころにあたります。大学・研究所など先端的なところならともかく、一般にはまだウィンドウシステムもインターネットも知らない人の方が普通といったころです。この間に、彼らの成長と軌を一にするように、生活の末端にまでコンピュータとネットワークが広がってきたということになりましょうか。そう思うと、彼らからみての、大学の設備であるコンピュータやネットワークというものは、我々が学生時代に感じていたものとはまた趣の異なるものなのかもしれないと、最近思うようになりました。

PCやネットアクセスが普及し、それでできる程度のことであれば、もはや「特に大学までいなくても……」という事態になってきています。そのこと自体には、良い面もあれば悪い面もあると思います。ただ、本号でも解説のありましたスーパーコンピュータや、(こちらは本号ではあまり言及がたまたまありませんが) ネットワークという、大学の情報基盤を提供するセンターという立場では、やはり「特に大学にいなくてもいい」とは言わせないような、存在感のある技術・サービスを提供していくのが筋というものであろう、などつつらつつらと考えている昨今です。

(H.Y.)